

令和3年12月8日 基地周辺対策特別委員会 議事録
9時56分 開会

○出席委員 (7人)

委員長 北地 範久

副委員長 児玉 朋也

委員 小中 真樹雄、中川 智之、和田 芳弘、山崎 年一、寺岡 公章

議長 賀屋 幸治

副議長 網谷 芳孝

○欠席委員 (1人)

委員 山本 孝三

○北地委員長 おはようございます。時間が少し早いんですけれども、定足数に達しておりますので、ただいまより会議を開きます。

なお、山本委員より欠席届が出ておりますので、よろしく願いいたします。

開会に当たり、市長に御挨拶をいただきたいと思います。

市長。

○入山市長 基地周辺対策特別委員会開催ありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

○北地委員長 ありがとうございます。

それでは、日程にしたがって進めさせていただきます。

まずは日程1、執行部報告事項についてを議題といたします。

執行部からの報告をお願いいたします。

田中課長。

○田中危機管理課長 おはようございます。

それでは、定例ではございますが、基地周辺対策関係の報告をいたします。

お手元に資料1から資料6を配付しております。サイドボックスにも入っておるかと思っております。

まず、資料1を御覧ください。こちら阿多田地区における日常の航空機の騒音状況について、漁協の職員の方をお願いをしまして、御自身や住民の方が感じたことの実情等について記載をお願いしているもので、今年8月から10月までのものとなっております。

9月13日以降ですね、騒音についての記録が大幅にふえております。この報告の内容につきましては、毎月、防衛省中国四国防衛局岩国防衛事務所のほうに、騒音苦情の実態といたしまして情報提供をするとともに、騒音対策への配慮、それから訓練等の情報提供についてお願いをしておるところでございます。

続きまして、資料2を御覧ください。

こちらは阿多田漁協の屋上に防衛省が設置しております騒音自動測定装置から、航空機等が飛来した際の音をデシベル値で表したのになっております。1日単位、発生時間別

で集計した結果となっております。こちら8月から10月の内容でございます。

90デシベル以上となったところ、8月は見受けられないんですけども、9月以降、黄色で表示されております。これ数えてみますと、8月はゼロでございましたが、昨年と同時期は8月、11回ございました。9月、ふえておまして、全部で10回。昨年の同月では6回。10月になりますと物すごくふえております。88回ございます。昨年同月では19回ということで、3カ月合計いたしますと98回、昨年は3カ月合計36回ということで、大幅にふえている。しかも回数、音量ともにふえているということが見て取れます。

昨年11月上旬に、空母艦載機が帰還して以来、11月から今年の1月までの3カ月合計で見ますと285回、今年の2月から4月までの3カ月合計は312回と、増加傾向でした。5月から7月の3カ月で見ますと51回ということで、大幅に減っておったんですけども、これ昨年度も同様の傾向が見られましたが、10月以降大幅な増加ということが見て取れます。

続きまして、資料3を御覧ください。今度は横長のものでございますが、こちらが防衛省が岩国飛行場の周辺市町25カ所に設置している騒音測定器から計測された値を、うるささ指数に変換して集計しているものです。こちら全て中国四国防衛局のホームページ上で掲載されておるものです。

3枚目までが令和3年8月から10月の月別平均値を掲載したもので、4枚目以降が8月から10月までの毎日の計測結果を示した表となっております。

大竹市の観測地点は、ナンバー7の阿多田島漁業協同組合と、ナンバー9のサントピア大竹となっております。こちらの数値でも、阿多田島は4月から減少傾向が続いておりましたけれども、9月以降再び増加し、10月は多かった4月並みに戻っています。また、西栄にありますサントピア大竹でも同様の傾向が見られて、10月で見ますと、4月を超える数値を記録しているという状況でございます。

次に、資料4を御覧ください。今度は縦長でございます。こちらは資料、先ほど示しました資料3のW値の月別平均値を折れ線グラフで表したのになっております。ナンバー7の阿多田島と、ナンバー3の岩国基地の北側にあります岩国市三笠町東中学校、この数値の比較となっております。

緑色の線が、平成20年度で滑走路の沖合移設前。青色の線が平成28年度で、沖合の移設後。黄色の線が令和元年度、それから赤色の線が令和2年度ということで、今年は黒で表示されております。こちらが空母艦載機移転直後の、直近の計測値の比較となっております。4月、今年度最も高い値を示しておりましたけれども、6月以降、前年度に比べて低下をしておりました。しかしながら、9月以降再度上昇しまして、前年度を上回りました。10月には大幅に高い4月並みの値を示しております。

ここまでが、毎回報告している定例報告の内容になります。

1枚繰っていただきまして、資料5、縦長の簡単なテキストでございますけれども、こちら御覧ください。こちら、最近岩国基地に寄港しました自衛隊と米海軍の艦船の情報をまとめたものでございます。

マスコミ報道等で既にもう御存じかと思えますけれども、中国四国防衛局からの情報提供のあったものの概要のみ記載しております。いずれの艦船の寄港も、航空機騒音の増加

には直接的には影響はなかったものと聞いております。

最後、資料6を御覧ください。こちらは広島県が毎年半年ごとに記録を出しているもので、今年の4月から9月までの集計、米軍機の航空機騒音発生状況等の概要というものでございます。

1枚目の3、概要(1)集計対象にありますように、国設置の騒音測定器における70デシベル以上の航空機騒音が発生した回数等を記録したもので、県内設置の6地点の比較をしたものになっております。

今年の上半期で比較いたしますと、今年度の騒音発生回数合計は、令和元年度の上半期に次いで多い数字になっておりますが、大竹市の西栄、それから廿日市市の宮島ですが、これが過去の最大値を記録しております。

それから次のページ、4、参考(市町からの米軍機低空飛行の目撃情報)というものでございますけれども、こちらは各市町での米軍の航空機の低空飛行の目撃情報を集計し、比較した表となっております。

(1)から(4)の表がございまして、それぞれ平成29年度以降の年度別の集計、今年度上半期の市町別の集計、それから曜日別、時間帯別に集計がされたものとなっております。

説明は以上でございまして、よろしくお願いたします。

○北地委員長 ありがとうございます。

報告事項たくさんありましたけれども、御報告いただいた件につきまして、聞き逃した点とかよくわからない点ございましたら質疑を認めます。質疑はございませんでしょうか。山崎委員。

○山崎委員 おはようございます。

岩国基地については、中国の問題、あるいは東シナ海等で大変、接触には至らないまでも、いろんな国々の動きの中で、岩国基地の動きも増しているんだろうと思うわけですが、今年2月にはF-22が1カ月ぐらい来て、訓練をしたと。また、今月の4日ですか、F-35Aが4機ほど来て、また20日ぐらい訓練をするんだという話でした。

今伺った騒音状況とか、測定器で測定した状況というのはこの表を見ればわかるんですけども、実際にその住民が受けておる影響として、阿多田島を中心としたその住民が直接感じておる、その日常の問題というのを、これは機械的には今説明を受けたんで、かなり大きくなったと思うんですが、直接住民はどのように感じておるのかと、そういったことが市のほうに入っておれば、そういったことを伺ってみたいんですが、現在までの状況、今年になってから従来と変わったような住民の声とかいうのがあれば聞かせてください。よろしくお願いたします。

○北地委員長 課長。

○田中危機管理課長 住民の皆様からの声、苦情といったことですが、資料1のほうにまとめておりますのが、漁協の方にもまとめていただいたものもありますし、これ以外にも市民の方からも直接苦情が寄せられることもございます。

F-22の際は、特段これは苦情というのは、新しい飛行機が来たけどどうなのかという

ようなこともございませんでした。

先ほどおっしゃいましたF-35Aの件でございますけれども、こちらが12月2日に岩国基地のほうに来ておるということで、12月3日に、中国四国防衛局のほうから事後報告で情報提供ございました。

この新しく来た、今のところ報道では4機と言われておりますけれども、最終的に何機が来るのか、いつまで訓練をやるのかという情報については、中国四国防衛局のほうにも確認はしておりますが、そちらも持ち合わせていないということでございまして、この飛行機が来てから後の、また新しいのが来てるけどどうなんだというようなことの苦情も、現時点ではまだ入っていないという状況でございます。

以上です。

○北地委員長 山崎委員。

○山崎委員 これからもっと基地自体は活性化するという話なので、激しくなってくるんだろうと思う。そういったことで、割かし、住民の皆さんはおとなしいと言いましょか、なかなか声を上げにくい部分もあろうかと思っておりますので、しっかりと声を吸い上げられるような形で対応できるような体制を取っていただきたいと思っておりますので、ぜひ、御面倒ではございまいしょうが、よろしく願いをいたします。

それから、交付金のことについては聞けん。

○北地委員長 後でします。

○山崎委員 終わります。

○北地委員長 他に質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○北地委員長 ないようでございます。

以上で、日程1については終了といたします。

続きまして、日程2、その他についてを議題といたします。

この件につきましては、11月11日に、岩国基地問題議員連盟連絡協議会の特別要望というのがあったように聞いておりますので、そのあたりを議長のほうから報告、内容についての報告、概要について教えていただければと思いますので、よろしく願います。

議長。

○賀屋議長 それでは、私のほうから、先日11月11日に岩国基地周辺地域の振興策に関する特別要望ということで、サイドブックスのほうにも掲載をしておりますけれども、この特別要望書を国のほうに提出したということで報告をさせていただきます。

まず、行ったメンバーではございますけれども、これは山口県と岩国市、周防大島町、和木町、大竹市のそれぞれの首長と、その議会に属する議員連盟という形で、それぞれの議長と、岩国基地問題議員連盟連絡協議会をつくっておりますので、その山口県議会議員の副代表という形で槇本県議ですね、それと畑原県議、それと岩国市からは岩国基地問題議員連盟連絡協議会の副代表の桑原議員が同行して行きました。

最初に、要望先としましては岸防衛大臣に面会をし、要望団を代表して、村岡知事から要望書に沿った内容で説明をされました。主には、これは令和3年度で終了する再編交付

金ですね、この件が大きな課題でございますので、このことについてお願いをしたということになります。

この再編関連地域においては、空母艦載機移転から騒音被害や事故への不安など、著しく大きな基地負担を抱え続けていることから、市町に対する交付金制度を継続し、恒久的な措置とすることを、7月にも同様の要望活動は行っておりますけれども、これに引き続いて重ねて要望したということでございます。

特に今回は、国のほうの新年度予算編成、これは1月からこの予算について通常国会で審議をされますけれども、この予算編成に向けての最後のチャンスといたしますか、要望になるということで、各市町の首長も、それぞれ現状とその意見について発言をされました。

岸防衛大臣からは、再編交付金ということについては従前から要望もされておりますし、何と言っても地元の国会議員でございますので、十分承知をされておるといふこともありまして、再編交付金については新年度予算編成に向けて対応していくという返事をいただきました。

それと併せて、事故防止の安全対策や米軍訓練情報も、できるだけ速やかに提供していきたいということも、返事としていただきました。非常に前向きな対応であったと感じております。

続いて、防衛省から総理官邸に移動して、岸田内閣総理大臣、それと松野内閣官房長官を表敬訪問し、お二人と面会をすることができました。経緯を伝えるとともに、要望活動で上京したこと、また、岩国基地の最新の状況等をお伝えをして、支援をお願いしたということでございます。

面会時間は15分ぐらいだったと思っておりますけれども、非常に快く対応していただいたと。当然総理大臣は、広島県出身ということもありますし、非常に関心を持っておられるということもあって、真剣に受け止めていただいたと感じております。

次に、午後から林外務大臣を訪問して、防衛大臣と同様の要望書を手渡し、説明やお願いをしたということでございます。林大臣は、ちょうどその日が皇居での任命式直後ではあったんですが、時間を割いていただいて、地元の要望にお付き合いをしていただいたということで、非常に地元配慮した対応をしていただいたと感じました。

いずれにしても、こちらからの要望の真意としては、十分に今までのことも踏まえて伝わっておりますので、後は実際に予算の中でどういうふうに整理をされていくか、どういう形で計上されていくかということになるろうかと思っております。最終的に予算委員会等もありますので、まだまだ確定ということにはなりませんけれども、要望団としては、成果としては十分に手応えはあったと感じて、帰るということになりました。

以上で、要望活動についての報告を終わります。

○北地委員長 ありがとうございます。希望のある要望活動になったとは思いますが、

それでも、本件の議長の説明に対して聞いてみたいこととかございましたら、お願いいたします。

寺岡委員。

○寺岡委員 すみません、議長におかれましては大変お疲れさまでございました。明るいニュースを持ってきていただいたなと思っております。

ただ、やっぱり気になるのが、この要望団、岩国基地問題議員連盟連絡協議会の中での大竹市の存在感というところなんです、国のほうがこの地域に対して、例えば交付金とか、出していただけるとして、そこが、岩国市は御当地としてメインで扱われるとは思いますが、大竹市もこれまで一緒に長らく手を携えてやってきた関係の中で、どれぐらい国の中で重きを置かれているのかというのが、一番気になる場所なんです。

岸田総理大臣は広島県出身とはいえ、どんな時代でも岩国基地周辺の1つのまち、県境に限らず影響を受けているまちとしての存在感というのが、手応えがどうであったかというのをお聞かせください。

○北地委員長 議長。

○賀屋議長 ありがとうございます。

この要望そのものは、この要望書にもありますように、大竹市と最後に名前も載っております。大竹市の位置づけが、当然岩国基地に対して一番近いところで、騒音被害が一番増大しているところについては皆さん十分御承知で、特に防衛省においても、あるいは財務省においても、そのあたりは非常に心配をさせていただいておるところであろうと考えておりますし、2年前に防衛省に伺ったときにも、担当レベルでは十分承知はしておりますし、再編交付金にかわるものの検討を今しているんだということの返事も、その当時もいただいております。

ただ、その再編交付金の使い方について非常に、どの程度、一番騒音被害が大きい阿多田島に対してどのように使われているのかということ、財務省のほうから逆に問われることがあるんだということ、非常に心配をされておりました。それは大竹市の中で用途については考えていくことではありますけれども、そういう騒音被害が一番大きい阿多田島ということについて、国は非常に今心配をさせていただいておることがありますので、今回その山口県側と同行したような形ではありますけれども、いわゆる要望団の一員としての位置づけは、十分に理解もさせていただいておると考えております。

それと、今回の内閣の組閣を見ても、岸田総理大臣、それと岸防衛大臣あるいは林外務大臣、関係する全てのところで、この地域に密接な方が身近におられるということの中で、非常に心強い感じも受けておりますので、決してこの信頼関係というのは裏切られるようなものではないと受け止めております。

以上です。

○北地委員長 山崎委員、先ほど再編交付金の関係というのがあったんですけども、よろしいですか。ないですか。

○山崎委員 大丈夫です。

○北地委員長 他にございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○北地委員長 他になしと認めます。

執行部のほうから何か補足とか、そういうものはありますでしょうか。

市長。

○入山市長 今議長のほうから、財務省から防衛省のほうにいろんな話があるという内々の話もありましたけど、私が理解している上は、大竹市のまちにこの再編交付金は出すということで、格別阿多田島が特別だというようなことでのお話は、防衛省のほうからはいただいております。大竹市民全体でもってどういうふうを考えるかということ、大竹市民の皆さんが我慢をすることを認め、そして、防衛施策に対して理解し、協力すること、そのことを再編交付金でもってPRしたいということが、防衛省の意向でございます。

確かに科学的な判断で行くと、音ということが一番科学的に判定がしやすいということで、音でもっていろんな評価はしますけど、市民の皆様方が不安に思うことは音だけのことではなくて、全ての、防衛に関することの全てが心配事でございますので、そのことを強調しながら、日本全国の国防に関してちゃんと理解しているよということをアピールすることによって、この制度がちゃんとつながるようにこれからもやっていきたいと考えておりますので、どうかその辺の御理解はいただきたいと思っております。

音だけで言いますと、山陽本線のガードの近くでの騒音測定の数値は、W値で換算しますと90以上。人間が住めるところではないという数値になってまいりました。だからその辺のことは冷静に考えながら、全てやっていきたいと思っておりますので、御理解をお願いいたします。

○北地委員長 ありがとうございます。

では、よろしいでしょうかね。

以上で、議長に対する確認を終わりたいと思っております。

ここからは委員のみの協議となりますので、執行部の方は御退席しても結構かと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、前回、今後の進め方ということで意見をお願いしたと思うんですけど、皆さんから提出いただきまして、いろいろ意見がございますけれども、具体的にもう少し説明が欲しいなと思ひまして、今日は個別に、それぞれの提出した委員の皆さんから具体的に説明をお願いしたいと思いますので、よろしいでしょうかね。

それでは、提出順に、小中委員のほうから意見をいただいておりますけれども、具体的に内容的なものをお願いいたします。

○小中委員 私は別に、特にはないんですが、結局その再編交付金っていうのがどうなるかっていうのを、きっちり捉えることが必要だと思います。私は個人的に、この再編交付金というのは名前であって、個人的にはこれは完全な迷惑料だと思っておりますので、要望じゃなくて本来要求してしかるべきものだ、個人的には思っております。これは個人の意見ですけど。

それはもう本当に、岩国市の側からしたら日米地位協定とかいろんな問題があるけど、とりあえず大竹市はそういう日米地位協定の問題なんていうのはあんまり関係なさそうなので、でも、大竹市から米軍基地に勤めておられる方があれば何か関係するようなこともあるかもしれませんが、とりあえず今のところはないと思っておりますので、まず、何よりもそういうその国防が何とかかんとかといっても、1つの地域に多くの負担を強いる、

沖縄県に次ぐ極東最大級の基地を抱えているわけですから、先ほど市長もおっしゃったように、騒音だけじゃなくいろいろな危険な事態だって想定されるわけで、とりあえずそういう重荷を背負わされていることからして、再編交付金か何か知りませんが、迷惑料に見合うものを国に要望なり要求するのは当然だと思われまますので、その動向がどうなるかというのを、常にその委員会として注視していく必要があるのではないかと思います。ただそれだけでございます。

○北地委員長 特に活動ということは。

○小中委員 活動っていうか。

○北地委員長 見守っていききたいという御意見ですね。

○小中委員 そうです。

○北地委員長 わかりました。これはもう予算の話なので、予算がどうなるかを待つしかないと思うので、ではそういうことで受け止めておきます。

新和会のほうはいかがでしょう。

副委員長。

○児玉委員 うちは2点ほど提出させてもらっております。

1つは、今、小中委員が言われたのと一緒に、再編交付金が見送られるのであれば、改めて2市2町で協力して、交付金のための要望活動を推進していくということですが、これも先ほど議長が言いましたように、要望活動も推進されて、今の時期どうなるかわからないということで、もらえなくなるとなればそういう活動を、また、2市2町ではなく1市だけでもそういう活動をしていかなければならないと思いますけど、まだ今の段階ではこれは置いとくということでもよろしいんじゃないかと思います。

それともう一点が、再編交付金の使途が阿多田島の住民のための予算編成になっているのかということなんですけど、これはうちの会派に議長もおられまして、今の話が、市長と議長の話が少し意見が食い違つとるということで、私自身は阿多田島の住民のためになっているのかということではなく、再編交付金が阿多田島とともに大竹市が発展する施策の考え方というのを見つけてあげないといけないと考えております。

先ほど山崎委員が言われましたけれども、阿多田島の住民は声がちっちゃいで、いろいろなことを思うとってなかなか表に向いて出さないということがありますんで、議会と執行部のほうが協力し合って、こちらのほうから提示してあげるといふことにしなければ、阿多田島の方の意見を出して阿多田島に使ってあげるといふことは、無理なような気がします。

私は、今、考えたんですけど、大竹市のためにもなる、阿多田島のためにもなるということになれば、その阿多田島にいろいろなお客さんを引き込む施策も必要じゃないかと思っております。

例えば海水浴場の復活とか、外周をマラソンコースにして、宮島でもやった、トライアスロンの誘致なんか、いろいろなことを考えればどんどん阿多田島にお金が落ちる方法、阿多田島が発展する方法もできると思うんで、今後そういうこと、阿多田島だけではなく、大竹市とともに発展する方法を考えていったらどうなのかなということなんです。会派の意見

とは少し違うかもしれませんが、そういうことで私は思っております。

○北地委員長 大分この意見の内容とは違って来たと思うんですけど。

今の意見に対して、皆さんの御意見もしあれば、市全体のことを考えていこうというスタンスだろうと思うんですけど、たちまち具体的に何をどうするかということになると。

○児玉委員 それは皆さんで決めていって。

○北地委員長 そういうのに取り組んでいくという話ですか。

まずそれが1点出ましたね。

議長。

○賀屋議長 今、同一会派としてフォローもさせていただきますけれども、要するにやはり阿多田島の振興のためにどういう使い方をするかということであろうと思うんですが、1つのアイデアとして、そういった阿多田島の活性化に向けていろんなアイデアを出していったら、それを市全体で盛り上げていくということが、最終的には阿多田島の振興につながり、また、その再編交付金の使途として、それが明確に阿多田島の住民の方にも残っていくということじゃないかと思うので、それを踏まえてその使い方、使途についてのいろんな考え方について、議会として、この基地周辺対策特別委員会として提案ができたらいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○北地委員長 議会のほうから何か事業として提案していければというような考えですね。

今のところは意見を聞くという段階なので、そこでとどめておきます。

それではチーム創安のほうはいかがでしょうか。

寺岡委員。

○寺岡委員 私たちは、この基地周辺対策特別委員会が設置された理由というところから考えました。令和元年9月定例会で、在日米軍等再編後の岩国基地周辺対策に関する事項ということですので、広い意味で考えました。

委員会活動としても議会の活動としても、このところ岩国基地との関係がないなど、つながりが薄れているなど感じています。直接的なやつですね。それで、本来で言えば委員会活動として基地に出向いていって見学させていただきながら、いろいろ意見交換、説明をいただくということをやりたいところではあるんですけど、こういう御時世ですのになかなか全体で動くのは難しいですから、岩国基地の中の人をお招きして、基地の実態ですね、そういったところに直接触れる場面というのはつくれないかなと思っています。

それによって、私たち自身の岩国基地に対する理解も深まって広まるということも期待したいですし、岩国基地の中で大竹市とのつながりというところで、先ほど発言した存在感というのを表していきたいかなと思っています。

これは計画をつくっていけばいいので、これまで、また、これからこの基地周辺対策特別委員会の中で議論が出る、今後の交付金の扱いであったり、阿多田島のほうの施策提案とかと並行してできるのではないかなと思いますので、まずは私たち基地周辺対策特別委員の理解度を、深化させていけばいいんじゃないかなと思います。

また、自衛隊の基地もあるんですけども、そこにも広報室はありますし、米軍海兵隊

のほうも報道官というか広報担当いらっしゃいますし、そういう方々との連携、幸いにしてタイミングよく、大竹市の危機管理課には元自衛官の方もいらっしゃいます。そういう方々から自衛隊の動き、海兵隊の動きというのが実際こうなんだよというところを、知っておく必要があるかなと思います。

以上です。

○北地委員長 基地関係の方のお話を、現状を聞くというような。

○寺岡委員 関係をつくるという。

○北地委員長 関係をつくるということですね。関係をつくってお話を聞くというところまでですかね。

いかがですかね、皆さん、そういったところは。

児玉副委員長。

○児玉委員 今、委員長が、そういったところはいかがですかねって、今回はこのみんなの会派の中の意見を聞いて、また集約するということだと思うんで、今この意見はどうですかねとか言ったら、さっきみたいな意見も聞いてもらわにゃいけないので、一応皆さんの会派の意見を聞くということのほうが。

○北地委員長 わかりました。それじゃ、そこでとどめておきます。

それでは清誠クラブ、いかがですか。

○和田委員 先ほどからいろいろ話を聞いたときに、再編交付金を、市長が言われたように、もう阿多田島だけに使うんじゃないに大竹市民のために使いたいというのは、もちろんそれでいいんですが、そうは言うてもやっぱり阿多田島の住民が一番迷惑かかるのは間違いないので。それに対して何か方法を、もちろん議会も考えないといけないと思います。大竹市、阿多田島を元気にする何かをね、それは皆さんで考えてこれからやっていけばよいと思います。

○北地委員長 今3点出されているんですけども、その辺の具体性を。

[発言する者あり]

○北地委員長 これは、また後日、個別に聞かせていただきますので。

それじゃ、くろがねのほうはいかがでしょうか。

山崎委員。

○山崎委員 先ほどから議長をはじめ、岩国基地問題議員連盟連絡協議会の皆さん、大変要望活動についてはしっかりと取り組んでいらっしゃるということではありますが、いずれにしましてもこの交付金というのは、大竹市にとっては大切な収入ということになるかと思うんです。ましてや、こういった大きな問題が、岩国基地に隣接しておるということから考えましても、大変な迷惑を被るという状況でありますので、今までどおりしっかりと、申請するといいましょうか、交付金を確保してもらえようような要望をしっかりとしていきたいというのが1点と、もう1点は、特にこれから岩国基地はもっと強化されるし、強大になってくるんだろうと思います。そういったことで、一番の被害を受けるのはやっぱり阿多田島の住民だと思います。

先ほどから委員の皆さんも指摘されていますように、やっぱりここの住民に、どうしっ

かりと対応していくかということが、今度の交付金の大切な1つの要素だろうと。確かに大竹市に対していただいている再編交付金ではありますが、その根底というのはやっぱり一番犠牲になる阿多田島住民ということがあるかと思imasので、その住民のやっぱり要望活動や思いをしっかりと議会として支援してあげる、そういった取り組みができればなというのが、今回私どもの提案でございます。

いろいろ栗谷地区のほうも大変だという話も伺います。全体としても目を配りながら、やっぱり部分的にもしっかりと取り組んでいくという、政策を考えていく必要があるのかなと思います。

以上、よろしくお願ひします。

○北地委員長 わかりました。住民に対しての取り組みを強化していきたいという発想ですよ。御意見ありがとうございました。

何か今まで出た意見の中で、もう少しこ聞いてみたいとか。特にはございませぬかね。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○北地委員長 ないようでございます。

それでは、意見がないということなので、今聞かせていただいた中を、もう少しポイントを絞って、次回にまたテーブルに載せていきたいと思imasので、その先にどうして進めていくかと。我々のほうは副委員長とポイントを絞り出しますんで、それをまた具体的にどうするんかとか、また御意見いただきたいと思imasので、そのような進め方でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○北地委員長 ありがとうございます。

それでは、以上で、日程2については終了いたします。

以上で、全ての日程を終了いたしましたので、基地周辺対策特別委員会を終了いたします。ありがとうございました。

10時40分 閉会